
目指す将来像

1-1 ともに生きる社会づくりに向けた神奈川県の実践

平成28年7月 津久井やまゆり園事件

- 平成28年7月「津久井やまゆり園」において発生した殺傷事件
- 男女19名が死亡、男女27名が負傷

平成28年10月 ともに生きる社会かながわ憲章



ともに生きる社会
かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

誰もがその人らしく暮らす
ことのできる地域社会を
実現したい！



令和6年 「ともいき社会は、ごちゃ混ぜから」

- まずは、多様な個性の人たちが当たり前にいる「ごちゃ混ぜ」
に共感してくれる人を一人でも多く増やすことから始めたい

1 - 2 目指す将来像

誰もが自己実現できる社会



他者への思いやりや共感に溢れた社会



ともいき社会

➡ まずは、**共感を呼ぶ「ごちゃ混ぜ」環境を多く作る**ことから着手

1－3 赤ちゃんが、老人ホームの職員に！

- 赤ちゃんとのふれあいが、**シニアの生きがい**に
- **子育て中の親や赤ちゃん**にとっても**居心地のいい居場所**に
- **赤ちゃんの頃から**多世代交流できる環境を提供

機嫌がいい日にお出かけ



報酬はおむつやミルク



誰もが役割と居場所を持つことができる 「やさしい社会」

1-4 子どもの動線を住宅づくりに応用！

- 平日の閑散日に住宅展示場の**モデルハウス**を子ども食堂として開放
- 子ども食堂の利用者が増加したほか、**企業のイメージアップ**に
- さらにハウスメーカーは、**収集した子供の動線（気づき）**を設計に応用



子ども食堂



住宅展示場



連携による「気づき」をイノベーションに！

1-5 「ごちゃ混ぜ」がもたらす価値

「ひと」の観点

誰もが自己実現できる社会

- 誰もが**役割と居場所**を持っている
- **誰かのために行動することが文化**となっている



「社会」の観点

持続的に発展できる社会

- **多様な主体が連携**しつながっている
- 多様性がイノベーションの源泉となり**革新的な事業を創出**

